

令和4年度 宮崎ユニバーサル・カレッジ 学校評価（自己評価）

評価項目 (重点項目)	評価指導	目標 (方策・手立て)	判断基準	自己評価 (令和4年)	結果の考察・分析及び改善策
1. 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 教育理念・課程に沿った授業計画・実践をしているか 	<ul style="list-style-type: none"> 「分かる授業」の実践。 シラバスを見直し再構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初の講義導入時に学生にシラバス・授業計画を基に授業の目標・目的・進捗計画等を伝えたか。 担当科目のシラバスの作成・見直しを年度末又は年度当初に行ったか。 	B (3.2)	<ul style="list-style-type: none"> ○ シラバスの内容に沿った目的や進捗計画などの説明は、教科担当者により実施されており、教職員それぞれが意識して取り組んでいる。また、外部へも理解してもらうためHP内に掲載している。 ○ 「分かる授業」の実践については、進捗状況や理解度を確認し実施されているが全体的な進捗状況の共有の場が少なく、今後その場を設ける必要がある。 ○ 年度当初に学科でカリキュラムの編成を行い授業体制およびシラバスの見直しを行った。令和3年10月に自動車特定整備事業の認証を得たため、今後は、情報収集とともに特定整備の内容を盛り込んだカリキュラムを取り入れて、改善を図っていく。(令和7年4月1日：新カリキュラムに基づく二級自動車整備士課程開始) ● 自己評価の推移 ・R3：B(3.3) ・R2：B(3.1) <p>・ 前期・後期開始時に学生にシラバスを配布し、全体の流れを説明することで学習目標・目的を明確にしている。</p> <p>・ 学生の理解度に合わせ、順序立てを改善し分かる授業へ取り組む事が出来た。</p> <p>・ 授業前に本時間中に進める範囲を事前に学生へ提示し、無理に内容を詰め込まずに授業を進める事を心がけている。</p> <p>・ 学生個々の理解度を分析しながら、授業の説明方法及び進捗を考え、定期試験内容もその年度に沿った物を作成する事を継続する。</p> <p>・ 年間計画と併せ、現時点で理解が必要となる項目や知識の必要性を伝え、取り組んでいる。</p> <p>・ 理解度を踏まえた科目別および項目別に進捗状況の変更を行い、理解度向上に努めている。今後も継続したい。</p> <p>・ 科目担当者として配布を行い、学生への伝達することができている。</p> <p>・ 年度当初に見直しは行ったが、学生の理解度に合わせ毎時間改善を行っている</p> <p>・ 当初シラバスで計画した進捗状況より若干遅れの誤差があるが、次年度はできる限り計画通りに授業を進められるように計画する。</p> <p>・ シラバス内容を授業にて展開した。</p> <p>・ シラバスを元に授業計画や上司からのアドバイスを参考にして行っている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の視点に立った教育方法の工夫をしているか 	<ul style="list-style-type: none"> 「建学の精神」の具現化に徹する。 <p>『建学の精神』 ～道義に徹し～ ～実利を図り～ ～勤労を愛す～</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業においてキャリア教育に関する指導を行っているか。またその指導の定着を図っているか。 進路や将来についての学生指導・アドバイスを行っているか。また心がけているか。 		B (3.2)

令和4年度 宮崎ユニバーサル・カレッジ 学校評価（自己評価）

評価項目 (重点項目)	評価指導	目標 (方策・手立て)	判断基準	自己評価 (令和4年)	結果の考察・分析及び改善策
	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得率向上を常に考え取り組んでいるか又貢献しているか 	<ul style="list-style-type: none"> 過去問題の分析や予想を怠らない。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年生の二級模試(12月期)において、担当した科目(1年・2年次に担当していた、又は担当している)のセクション平均点は6割を超えているか。 	<p>B (2.8)</p>	<p>○ 二級ガソリンと二級ジーゼル2科目の12月期模擬試験の平均正答率は下記の通り。()は昨年度【ガソリン】 イッヅ: 76.2%(79.6%)、 ッヅ: 66.2%(72.2%)、 工学: 80.0%(82.7%)、 法令: 94.0%(93.3%) ⇒判断基準の6割は超えているものの、昨年度と比較すると法令以外の落ち込みが見受けられ、全体的な低下が見られる。</p> <p>【ジーゼル】 イッヅ: 66.0%(71.8%)、 ッヅ: 61.8%(62.9%)、 工学: 66.0%(68.0%)、 法令: 86.7%(89.3%) ⇒判断基準の6割は超えているものの、昨年度と比較するとすべてのセクションで低下している。</p> <p>授業の進捗状況により毎年の状況が変わるが、正答率が若干低下しているため、学科会や学年会にて学生の現状把握や、その改善の方策を組織で対応し理解度向上に努めていく。</p> <p>● 自己評価の推移 ・R3: B(3.0) ・R2: C(2.3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 担当したガソリンエンジンとジーゼルエンジンの授業進捗状況により差が出ているため、今後は均等化が必要と考える。また、個人で理解度に差があるため個別指導を行い向上に努める。 1年生には二級自動車整備士資格試験問題と関連つけた内容だということ意識させ、その基礎となることを説明し学習をさせている。 2年生には授業内容が国家試験に必要な内容だと気づかせることができるように授業を行っている。 基礎知識の徹底に再度取り組む。 時間の経過とともに忘れてしまう部分へのフォローに力を入れていきたい。 昨年度の苦手分野を分析し、工学や法令について理解方法やトレーニングを行っている。また面談等を通して各個人にあった課題や勉強方法を実施できるよう指導している。 二級取得に意識をし授業できている。 現時点、6割で推移しているが今後は更なる向上を目標に取り組み。
2. 学習成果	<ul style="list-style-type: none"> 就職内定率向上を常に考え企業との円滑な関係構築に取り組んでいるか 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事と連携した企業との密接な関係構築に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 各業務の企業窓口担当者は、積極的に行動・提案して、円滑・綿密な企業対応に心がけ学生・学校の評価向上に務めたか。 各業務の企業窓口担当者以外は、担当者のサポートとして、事前準備等に積極的に取り組み、学生・学校の評価向上に務めたか。 	<p>B (3.3)</p>	<p>○ 7月の校内企業説明会では、18社に来校していただき、学生一人が聴講できる企業数を昨年度の12社より16社へ増やし実施した。夏休み期間の企業訪問へスムーズに繋げることができた。</p> <p>○ 11月の自動車工学科整備技術大会においては、企業から多数の来校があり学生の取り組みをご覧頂くことができた。また、内定者から企業へ近況報告と挨拶を行うことが出来た。</p> <p>○ 学校行事に関して企業との連携を状況に応じ実施することができた。また、企業から依頼のあったインターンシップ受け入れなどを行うことができた。今後も、教職員間での情報共有をさらに確実に行い、学生・学校の評価向上に取り組む必要がある。</p> <p>● 自己評価の推移 ・R3: B(3.2) ・R2: B(2.6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業と対話を行う場合は、卒業生の情報や在校生の近況を会話に盛り込むように意識した。 定着指導について十分に対応出来ない部分もあった。 今後の採用状況変化に対応できるよう、応対していただいた企業の方と本音で情報交換が行えることを心掛けた。 常に学生をより良く評価していただけるよう行動をした。 他業務も兼ねて、企業との連携・協力をいただいているため、今後も企業の協力を得られる取り組みを行う。 学生の進路選択となる学校行事等において、担当者のフォロー及び企業との連絡を必要な範囲で行っている。 企業窓口が完全に一本化できておらず、担任や話しやすい先生方に連絡がくるケースも少なくない 学科内での情報共有が行えていない場合があるため、二度手間になることがある。 企業とのやり取りが前年度と比べ少し遅れたため、次年度からは迅速に行動し、企業、学校の双方に迷惑をかけることがないようにしたい。 企業からの質問や要望などについては、迅速な情報共有を心掛けた。 学生と企業とのやりとりに関しては、円滑に取り組めるようサポートを積極的に行っている。

令和4年度 宮崎ユニバーサル・カレッジ 学校評価（自己評価）

評価項目 (重点項目)	評価指導	目標 (方策・手立て)	判断基準	自己評価 (令和4年)	結果の考察・分析及び改善策
	<ul style="list-style-type: none"> 学生と平日頃から良好な関係を築き、学習・進路・生活の支援を行なっているか 	<ul style="list-style-type: none"> より良い学校生活が送れるように学生との会話に心がけ情報収集に尽力する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学科会、学年会、推薦委員会等の開催や開催要望等を行い、学生の情報共有に努め、学生がより良く改善するための指導等に対して積極的に問題提起・発言・発案を行ったか。 	<p>B (3.2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 朝礼後の情報共有の場を設け、学級担任からの発言により学生の状況把握を行っている。さらに、教職員一人ひとりが情報発信と共有意識をもち、学生の状況が分かりやすい環境にしていきたい。 ○ 学科会において活発な意見が言える場となりつつある。学科職員が”学生が主役”であることの原点に立ち返り、入学してくる学生や保護者が「学校に求めていること（より良い職場、希望の職場への就職や確実な資格取得）」であることを再認識して学生が満足できる体制の構築をさらに図っていく。 ● 自己評価の推移 ・R3：B(2.8) ・R2：B(2.5) <ul style="list-style-type: none"> ・ 休み時間などでの声かけで良好な関係を築けている。 ・ 学生の状況に応じて、改善案のアドバイスが出来た。 ・ 教職員であることの自覚を持ち、学生に対しての言動について常に意識をしている。今後も立場を考慮して学生への支援となるよう行動していく。 ・ 各決定事項についての検討会（話し合い）の場を増やす必要性を感じる。 ・ 学生への目配りを心掛け、声掛けを常に行うようにしている。 ・ 学生の注意すべき点だけでなく、学生満足度を意識した問題定義、発案を常に行うよう心がける。 ・ 初任の先生方をサポート仕切れていない。させるだけでなく、しっかりとした意図を伝え業務に取りかかれるよう早期に準備していく。 ・ 学生に変化があった場合は副担任と協力して指導できており、次年度からは自分自身でも対応できるようにしたい。 ・ 通年行事を把握理解し、今後は改善できるよう発言を行っていく。
3. 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> 学生への目配りを怠らず、退学防止に努めているか 	<ul style="list-style-type: none"> 退学者を出さない目標を掲げ取り組む。 些細なことにも「気づこうとする」意識を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> やむを得ないとの判断(管理職判断)以外の退学者の発生は出ていないか。又、可能性がある学生を適切に指導できているか。 科目担当者として、必ず毎回授業中の情報を担任へ自ら提供したか。 	<p>A (3.8)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 退学者の発生はなく、クラス担任を中心に指導が行えている。また、長期欠席も発生しておらず常に念学防止に心掛けた取り組みが実施されている。 ○ コロナ感染による欠席が増加傾向にある。発熱した場合など教職員側も強く登校指導できない状況もあるため、今後は学校として更なる方針を決め、環境の変化に応じて指導を行いながら、体調管理を促す取り組みが必要。 ● 自己評価の推移 ・R3：B(3.0) ・R2：B(2.5) <ul style="list-style-type: none"> ・ 退学者の発生はない。登校していない学生などへは必ず連絡し退学を抑制している。 ・ 授業後に学生の取り組みなど担任へ情報提供を行った。 ・ 周囲の環境の変化や進路について精神的に不安定な1年生に対しての接し方や発言など、学生個々のモチベーションを維持させて学校生活を送れるように努めた。 ・ 自身も努力をしているが、今年度の退学者を防止できているのは、各学年担任の先生の力が大きいと感じる。 ・ 授業中の学生の状況や注意すべき情報を伝達している。 ・ 学生個人への声かけを行うと共に、学生の状況等を担任に報告し、情報共有を行いながら指導を継続していく。 ・ 小さな変化に気づけるよう目を配り、声をかけ退学者発生を防止している。 ・ 科目担当の先生へ聞き取りを行うよう心掛けている ・ 先生方の協力もあり退学者は発生しておらず、次年度もこの状態を維持していきたい。 ・ 学生の授業時間以外の様子も聞くようにし、必要に応じて面談を行っている。 ・ 担任として、他科目担当者との連携を強化していく。

令和4年度 宮崎ユニバーサル・カレッジ 学校評価（自己評価）

評価項目 (重点項目)	評価指導	目標 (方策・手立て)	判断基準	自己評価 (令和4年)	結果の考察・分析及び改善策
4. 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> 教室・実習場の整理整頓に心掛けているか又補修が必要な設備を放置せず報告したか 	<ul style="list-style-type: none"> 「学びの場」の環境保全を教職員・学生と連携して取り組む。 施設保全＝学生満足度と考える取り組み。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材・機器備品の使用は学科教職員も把握しているか、使用後の片付けや清掃は即対応しているか。 	B (2.8)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 経年劣化した実習車両3台を廃棄し、単体部品としての教材補充に当てることが出来た。また、実習場内の教材・機器の整理・整頓を行い学習環境の改善を図ることが出来た。 ○ 授業中に使用している教材や備品の散乱が時々見られ、教職員が整頓の意識を持ちながら行い、学科全体として改善が必要である。また、教材や機材の修繕は、その都度行わなければならないが放置が目立つため、教職員全体で修繕が出来るように情報共有が必要である。 ● 自己評価の推移 ・R3：B(3.0) ・R2：B(2.6)
	<ul style="list-style-type: none"> 機器・備品の適切な取り扱いに心掛けたか又積極的に必要な機器・設備の要望を行ったか 	<ul style="list-style-type: none"> コスト意識をしっかりと持った業務を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学科の予算要求に対して「わかる授業」のための教材の見直しを図り、必要と思われる機器購入等の要望を行ったか。 		B (2.7)

令和4年度 宮崎ユニバーサル・カレッジ 学校評価（自己評価）

評価項目 (重点項目)	評価指導	目標 (方策・手立て)	判断基準	自己評価 (令和4年)	結果の考察・分析及び改善策
5. 学生募集	<ul style="list-style-type: none"> 学生募集活動を積極的に行っているか 	<ul style="list-style-type: none"> 募集定員を確保できるように全教職員で取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当地区の募集目標を達成できたか。 担当校に特化したオリジナル資料を作成して募集活動を行ったか。 	B (2.8)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第4回入学試験（1月期）終了時点で定員目標に対する充足率が60%（定員50名に対し、30名の入学手続き）の状況となっている。併設校自動車科の生徒数が減少している状況の中、併設校のご協力の下、自動車科からの受験者と併せその他の学科からも受験者を輩出いただけた。毎月の学年会への参加や複数学科生徒への説明の機会をいただいた事などが成果として表れた。また、県立商業高校からの受験や女性整備士の紹介などが実を結び、女性3名の受験者も確保できた。 ○ オープンキャンパス参加者の歩留まり率は例年通りの約80%と高い状態を維持しているが、満足度向上やさらなる歩留まり率の向上と併せ、参加者数の増加を達成するための検討が必要である。 ● 自己評価の推移 ・R3：B(2.7) ・R2：B(2.6)
	<ul style="list-style-type: none"> 学生募集活動において、教育活動成果を適切に対象校担当者に伝えているか 	<ul style="list-style-type: none"> 高校訪問を常に意識して情報発信を心がける。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当の高等学校には、毎回面談頂ける先生がいるか。 決められた情報提供に終わらず、高校毎の特色を考慮しプラスαとなる情報提供を行ったか。 	B (3.2)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定員確保を目標に教職員全員が高校訪問を行い、学校によりなどの資料を使用しながら学校の活動状況や在校生の様子など創意工夫し、学生募集を行うことが出来た。また、新規採用者も同行訪問にて経験を積み重ね取り組んでいる。 ○ 学生募集に関して全教員が提案や要望ができる環境を整え、意識向上を図り一人ひとりが訪問活動によって実績に繋げていきたい。また、SNSを活用したPR活動を活性化していきたい。 ● 自己評価の推移 ・R3：B(3.0) ・R2：B(2.8)
総合評価				B (3.1)	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合評価の推移 ・R3：B(3.0) ・R2：B(2.8)